



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：212千円

Discover Classic Cars アナログデザインの真髄を学ぶ

目的・趣旨	自動車誕生から250年経った現在、EVや自動運転により100年に一度の変革期と言われている。そんな今こそアナログデザインの真髄とも言えるクラシックカー約60台を展示、再評価することでデザインと文化への理解を深める。
日時・場所	令和6年11月10日 静岡文化芸術大学 構内
体制	(実施代表者) デザイン学部 デザイン学科 教授 服部 守悦 デザイン学部 デザイン学科 准教授 宮地 良治
共催・後援等	(共催) クラブ・アルピオン

内容

大学構内に約60台のクラシックカーを展示し、各車のヒストリーやデザインについて参加者と一般見学者、学生との間で情報交換を行った。参加車両は1950年代～70年代のイギリス車を中心に、イタリア、ドイツ、フランス、ポーランド、日本と幅広く集まった。10時の開会式後、午前中は交流時間とし、昼休みには総合演習室で、本学ジャズサークルのライブを行った。13時より、トヨタ博物館館長布垣直昭氏による基調講演「クラシックカーと幸せの関係」を参加者全員で聴講した。講演終了後、歓談の後解散となった。



結果・成果

今日、自動車はEVや自動運転等により100年に一度の変革期と言われている。今回、アナログデザインの真髄を伝えるクラシックカーを見つめ直し再評価する事で、デザインはもちろん、背景にある歴史、文化への理解を深めることができた。特にデザイン面では、国や時代の違いによる個性的なエクステリアデザイン、工芸品のようなインテリアデザイン、木や革や金属などの異なる素材を組み合わせたCMFデザインが印象的で、学生たちにとっても本物に触れる貴重な機会となった。イベントポスターはデザイン学部の学生がデザインを担当、その他7名がアルバイトとして参加し、車内に掲示する紹介プレートの作成や、撮影、会場整備等に当たった。二輪四輪メーカーへ就職した卒業生も何人か来訪し在校生との交流を深めた。トヨタ博物館館長による基調講演では、世界のクラシックカー事情と文化の違いを紹介され、大変興味深い内容であった。同日開催の日本音楽学会の参加者の方々にも見て頂くことができ、デザインと文化という本学の特徴を広くアピールすることができた。

